

# 事業概要【熊本ポイント事業】

実施地域	熊本県熊本市	事業費	172,000千円
実施主体	熊本市、経済同友会、熊本市商工会議所、大学等	人口	74万人
事業概要	平成28年熊本地震の経験を経て醸成された共助（ソーシャルキャピタル）が、人口減少、少子高齢化の加速やコロナ禍による社会的不安・経済格差の拡大によって弱体化している。誰一人取り残されない持続可能な社会を実現するためには、市民一人ひとりの力だけでなく、地域住民が様々な課題を解決していく仕組み、「住民自治」の再構築が必要。そのために、「地域活動を価値に転換し、それがインセンティブとなるポイント制度」を導入する。		

## 取組内容

- ① マイナンバーカードと紐づけたポイントアプリを導入し、地域活動の際にポイントを付与する。付与されたポイントは、活動証明書の発行や電子クーポン等の商業利用ができる。
- ② 同アプリは、災害時に避難所入所時の名簿管理や災害ボランティアの名簿登録等にも利用する。

「③(2)商業的利用」については、アプリの普及状況等を踏まえ、R7年度以降に実施を検討。

## 平時

## 災害時

### 【A】地域活動の事例

- ① 自治会活動（活動全般）
- ② 環境保全（江津湖清掃等）
- ③ 交通施策（まちあるきワークショップ<sup>o</sup>）
- ④ 市民参画（市主催行事参加等）

### ③ポイント利用 (活動の価値を見える化)

#### (1)活動証明書 (=本人の価値)

- ① 単位取得 **大学**
- ② 人事評価・面接評価 **企業**

#### (2)商業的利用 (=金銭的価値)

- ① 電子クーポン **協賛店舗**
- ② 電子地域通貨 **地場銀行**
- ③ 商品抽選会



### ②避難者情報 (QRコード読み込み)

### ⑤支援ニーズ把握 (電子アンケート)

- ・要介護度
- ・障がい、乳幼児有無
- ・医療的ケアの必要性など

### ③防災システム 連携



### ④アウトリーチ型 支援

- ・物資供給
- ・被災者支援

### ②ポイント付与(対象)

【A】  
地域活動を行なった場合

【B】  
災害ボランティアに登録した場合

★電子でボランティア登録  
(QRコード読み込み)

熊本市  
社会福祉協議会

# サービス概要（1/3）

## ■ サービス内容

サービス名	ポイントサービス	事業費	101,000千円
ターゲット	熊本市内の地域活動やボランティアに参加される方		
展開エリア	熊本市		
サービス内容（事業分野：②住民サービス）			

**ソーシャルキャピタル（共助）を価値に転換することで見える化し、それを社会全体で評価する仕組み**を構築することで、持続可能な地域社会を目指す。

マイナンバーカードの署名用電子証明の機能を活用することで、①ポイントの不正取得防止、②ポイント使用時の申請・審査の省略、③活動証明書の本人性を担保する。



### 手順 1

アプリとマイナンバーカードを連携させる。  
（署名用電子証明）

市民  
ポイント  
アプリ



マイナンバーカード

### 手順 2

本市が指定する地域活動に参加する。

#### 自治会等活動

【例】夜間の防犯パトロール  
【例】地域の夏祭り等交流イベントの準備  
【例】高齢者の健康予防教室の手伝い

#### 環境保全活動

【例】地域の公園清掃  
【例】本、子ども服等のリユース  
【例】フードドライブへの協力

#### 交通施策

【例】まちあるきボランティア（バリアフリー改善）

#### 市民参画 など

【例】市主催行事等への参加  
【例】パブリックコメント、意見交換会参加

### 手順 3

活動場所で指定のQRコードを読み込む。



### 手順 4

貯まったポイントをアプリ上で使う。

【使途 1】  
活動証明書電子発行

高校…内申点への加算  
大学…単位取得  
企業等…人事・採用評価

【使途 2】  
商業サービスと交換

電子クーポン（協賛）  
地域電子通貨（地場銀行）  
商品抽選会（地産品）など

ソーシャルキャピタルの見える化

「使途2」については、アプリの普及状況等を踏まえ、R7年度以降に実施を検討。

# サービス概要（2/3）

## ■ サービス内容

サービス名	避難所運営サービス	事業費	61,000千円
ターゲット	災害時に避難される方、避難所運営される方		
展開エリア	熊本市		
サービス内容（事業分野：⑨防災・防犯）			

- マイナンバーカードを活用した**避難所受付**や**避難状況アンケート**により、**避難所情報**や**避難者状況**等の迅速な情報収集を行う。
- 避難者の**避難所入所（自助）の円滑化**に資するとともに、**避難所運営（共助）の効率化**が可能となる。
- 収集した情報を基に、**避難所情報の公開**や**人的支援・物資支援（公助）**に活用する。



# サービス概要（3/3）

## ■ サービス内容

サービス名	災害ボランティアの名簿登録サービス	事業費	10,000千円
ターゲット	熊本市内で災害時ボランティアに参加される方		
展開エリア	全国		
サービス内容（事業分野：⑨防災・防犯）			

平成28年熊本地震の際、最長4時間の順番待ちが生じた**ボランティア名簿の登録をマイナンバーカードを活用し、電子上で簡易に完結**させる。また、派遣場所や活動の注意事項等もアプリの通知機能でお知らせすることで、迅速な復旧支援につなげる。



### 手順 1

アプリとマイナンバーカードを連携させる。  
（署名用電子証明）



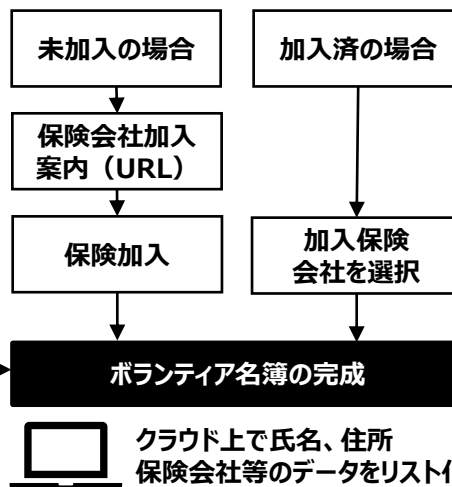
### 手順 2

アプリでボランティア受付会場に掲示するQRコードを読み込む。



### 手順 3

アプリ上でボランティア保険の加入有無等を選択する。



### 手順 4

アプリ上でボランティア活動場所等の情報を通知される。



- ・活動場所の住所等
- ・活動の注意事項等の説明動画の配信
- ・活動場所の被災状況に関するフィードバック（まだ人手がいる等）

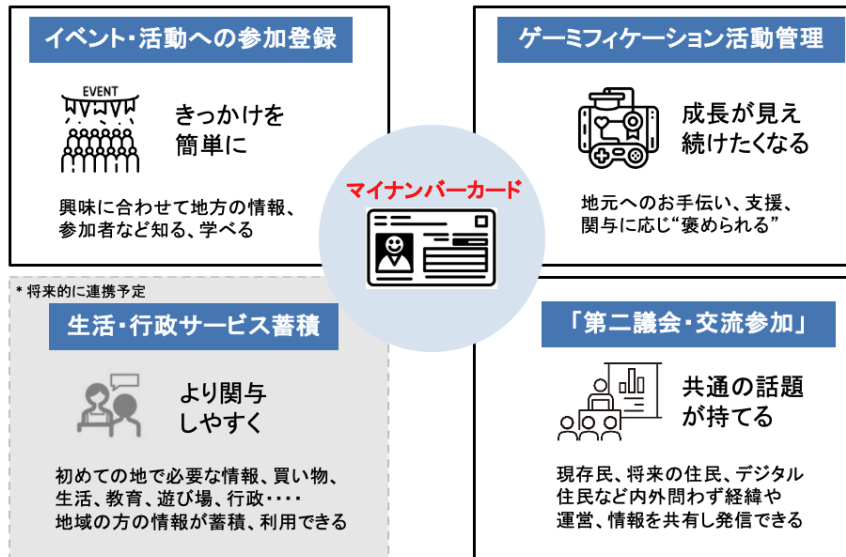
# 事業概要【大草原が育む食と自然のエシカルビレッジ】

実施地域	熊本県南阿蘇村	事業費	200,000千円
実施主体	熊本県南阿蘇村、株式会社stu、オークツ株式会社、熊本阿蘇県民牧場等	人口	10,155人
事業概要	トレーサビリティに優れた和牛(くまもとあか牛)の繁殖・肥育・加工・流通・消費の直接支援コミュニティを構築し、エシカルな畜産の可視化を実現する。また、国内外のコアな和牛ファンをデジタル上で展開し「阿蘇の大草原と豊富な地下水を守るあか牛」など、地域の特徴に応じて支援するシェフや消費者を集めることで、関与人口の増加と新産業創出にむけた「きっかけ」と人材が集う村を目指す。		

## 取組内容

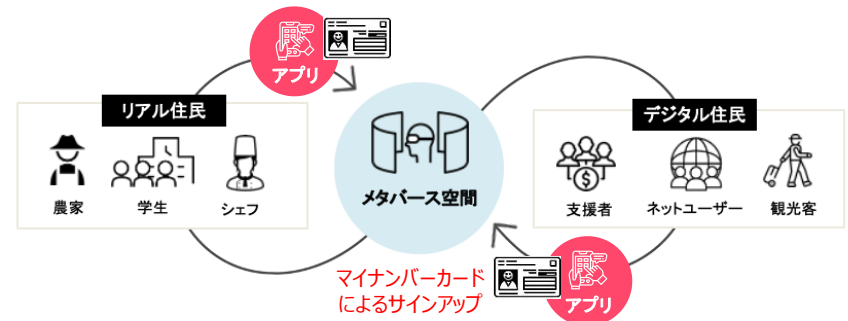
阿蘇の大草原で育つエシカルなあか牛を軸にした「関与」人口の増加と地域活性化モデル確立

### マイナンバーカードを活用した「関与」コミュニティの創出設計



\*「第二議会」とは地域内外の瓦版メタバースコミュニティとして定義

### 行政サービスだけではなく、日常生活におけるマイナンバーカード活用こそが持続可能な地域形成のカギ



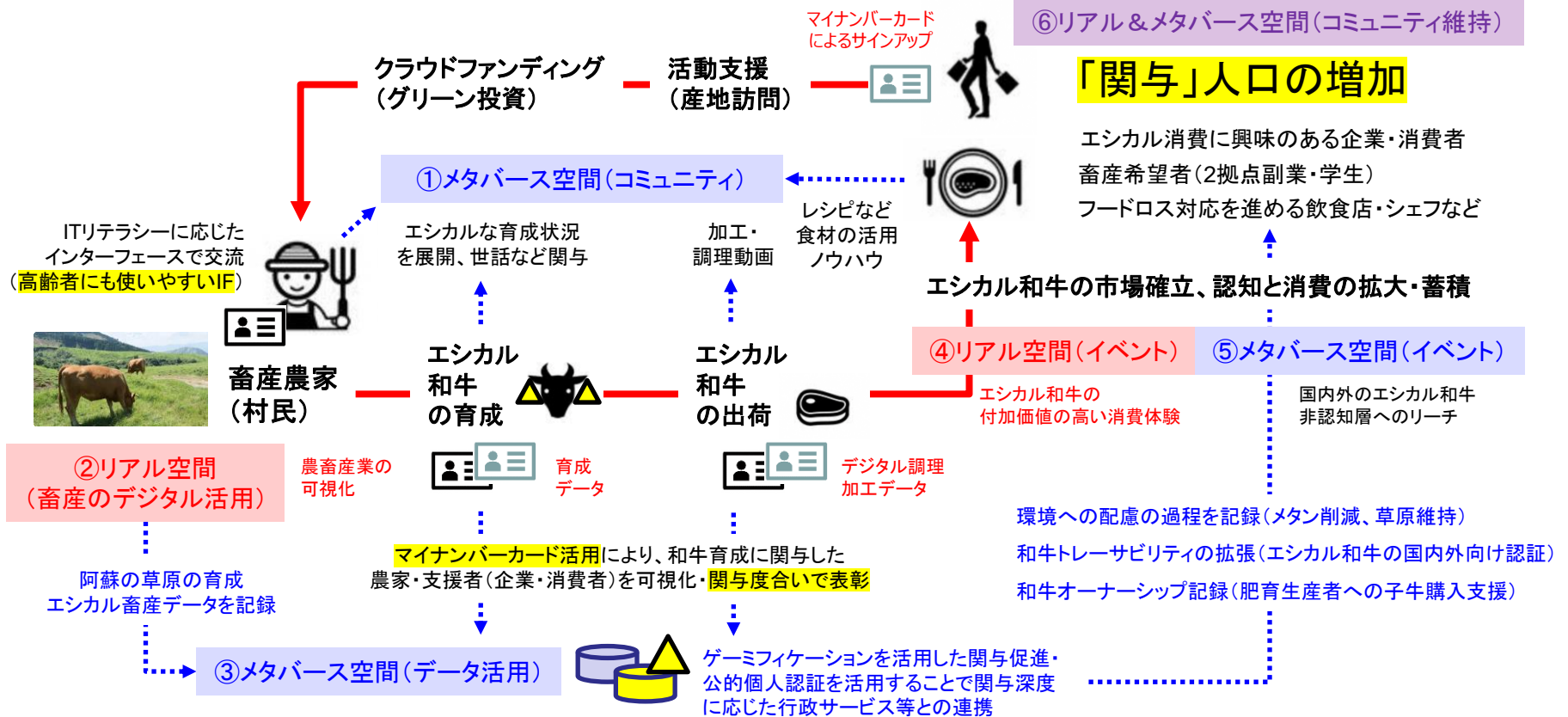
マイナンバーカードを活用した公的個人認証に基づき、リアル住民とデジタル住民をメタバース空間で結ぶことで、公助・自助・共助の視点で関与の輪が広がる「きっかけ」を設計（アプリを通じたメタバース空間コミュニティへのアクセスを想定）

# 事業概要【大草原が育む食と自然のエシカルビレッジ】

実施地域	熊本県南阿蘇村	事業費	200,000千円
実施主体	熊本県南阿蘇村、株式会社stu、オークツ株式会社、熊本阿蘇県民牧場等	人口	10,155人
事業概要	トレーサビリティに優れた和牛(くまもとあか牛)の繁殖・肥育・加工・流通・消費の直接支援コミュニティを構築し、エシカルな畜産の可視化を実現する。また、国内外のコアな和牛ファンをデジタル上で展開し「阿蘇の大草原と豊富な地下水を守るあか牛」など、地域の特徴に応じて支援するシェフや消費者を集めることで、関与人口の増加と新産業創出にむけた「きっかけ」と人材が集う村を目指す。		

## 取組内容

阿蘇の大草原で育つエシカルなあか牛を軸にした「関与」人口の増加と地域活性化モデル確立



# サービス概要（1/5）

## ■ サービス内容

サービス名	①和牛消費・流通コミュニケーション創出メタバース	事業費	60,000千円
ターゲット	日本の和牛に興味を持つ消費者、企業、シェフ、畜産農家（村民・志望者）		
展開エリア	熊本県南阿蘇村、デジタル空間上		
サービス内容（事業分野：⑩産業振興）			

### 「和牛好き」が立場、時間、距離の制約なく集う、コミュニケーションプラットフォーム

南阿蘇村に広がる大草原の維持に欠かさない放牧牛。中でも赤身が美味しい和牛「くまもとあか牛」は近年、ヘルシー志向の高まりから国内外から引き合いが強まっています。しかし、少子高齢化が進み、地域の生産者が減少する中でその需要に対応が出来ず、結果的に草原の維持管理も難しくなっています。

そこで、村内外の「和牛好き」が集うインターネット上の仮想空間（メタバース）を構築し、畜産のノウハウ、記録・過程、消費などを共有すると共に、脱炭素のトレンドに対応したエシカル化に向けた知見を募集し、その過程を通じて企業や研究者、畜産希望者、消費者と出会うことで村への「関与」を増やし、南阿蘇村に滞在したくなる（交流人口）、消費したくなる（地域活性）機運の高まりを目指します。



**マイナンバーカード**を活用したシングルサインオンと身元確認による簡単、安心の仮想交流空間を実現



高齢者な非デジタル層にもデジタル活用支援員を配してサポート



デバイスの利用がネックとなり取り残す事が無い工夫

世代に応じたインターフェース（IF）とデバイス対応で接続ストレスなく情報や議論にアクセス

# サービス概要 (2/5)

## ■ サービス内容

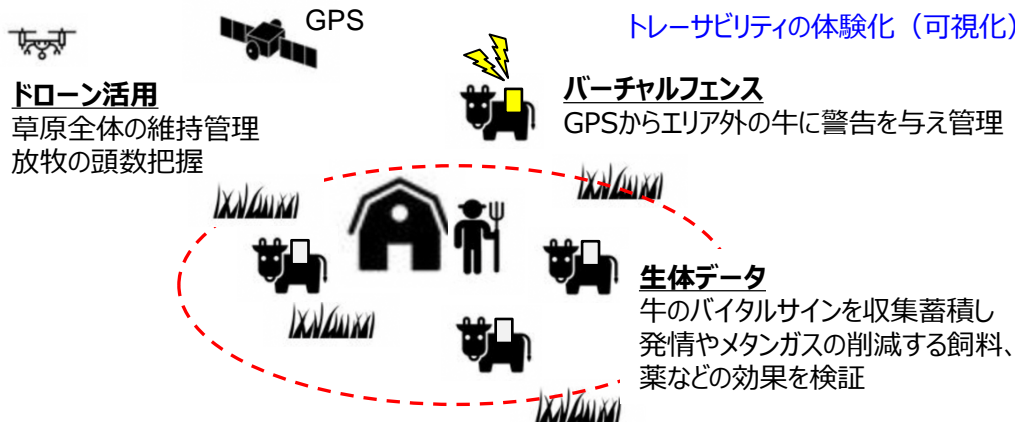
サービス名	②エシカル畜産推進に向けたデジタル活用支援サービス	事業費	25,000千円
ターゲット	日本の和牛に興味を持つ消費者、企業、シェフ、畜産農家（村民・志望者）		
展開エリア	熊本県南阿蘇村、デジタル空間上		
サービス内容（事業分野：⑧農林水産）			

### 畜産のノウハウをデジタルで継承し、新たなチャレンジを加速化する

酪農に比べてデジタル化が遅れている畜産の現場にデジタル・センサーデバイスを導入し、そのデータを蓄積解析することで属人的であった各農家の美味しいあか牛の繁殖、肥育ノウハウを共有し技術研鑽と品質の安定化を図る。また、近年課題となっている牛のゲップによるメタンガス（温室効果ガス）の排出削減に向けた取組など、顧客視点の新たな生産はそのプロセスを可視化することで村内外の研究者や企業を巻き込んだオープンイノベーションを加速できるように必要なデータをメタバースコミュニケーション空間上に展開できるように構築する。**マイナンバーカード**を認証として活用し、**生産過程を可視化し擬似農畜産業体験を通じた関与の創出・加速化へ。**

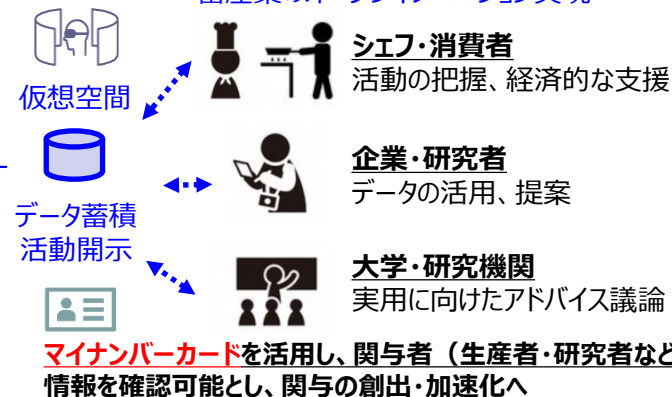
#### デジタル活用による農畜産業の可視化

トレーサビリティの体験化（可視化）



#### 活動内容の理解、支援、アドバイス

畜産業のオープンイノベーション実現





# サービス概要 (3/5)

## ■ サービス内容

サービス名	③メタバース空間データ活用	事業費	25,000千円
ターゲット	日本の和牛に興味を持つ消費者、企業、シェフ、畜産農家（村民・志望者）		
展開エリア	熊本県南阿蘇村、デジタル空間上		
サービス内容（事業分野：⑧農林水産）			

### ゲーミフィケーションを活用した「関与」コミュニティの育成、継続化

マイナンバーカードによる認証を経て参加するメンバーで構築される仮想空間上に、和牛の生産、流通、消費における関係者が集うことで、「くまもとあか牛」という共通の話題を通じてコミュニティを形成し、地元の農産物や観光への波及を目的としているが、そのプロセス設計において行動データを用いたゲーミフィケーションのアプローチを採用する。

具体的には、和牛に関する投稿や反応、体験、消費などに応じて一定のポイントがたまり、年間を通じて貢献度が大きいメンバーにインセンティブを設計する。また、インセンティブは通常ではお金で買えない価値（地元での体験・経験など）を準備することで、仮想空間上での参加メンバーに対してもリアルへの行動変容を促す。**マイナンバーカードを活用することで、関与の深度に応じて、移住などを含めたスムーズな将来的な行政サービスとの連携へ。**

#### ゲーミフィケーションによるインセンティブ設計



放牧のお手伝いを募集！  
→草原の手入れ、野焼きの準備のボランティア募集



牛の未活用部位（ネックなど）の調理法を募集！  
→一番、評価が高かったレシピに1000pt進呈  
（実際に地元のお店のメニューになる）



あか牛取り扱い飲食店の売れ残りメニュー支援  
→お得に販売、来店or宅配オーダーでさらに100pt進呈

仮想空間



#### ゲーミフィケーションによるインセンティブ設計



参加者の行動データから  
行動変容を促すイベント  
やインセンティブを設計



マイナンバーカードを活用し  
インセンティブをためていくことで  
楽しみながら、和牛コミュニティ  
の発展と成長に貢献できる

# サービス概要 (4/5)

## ■ サービス内容

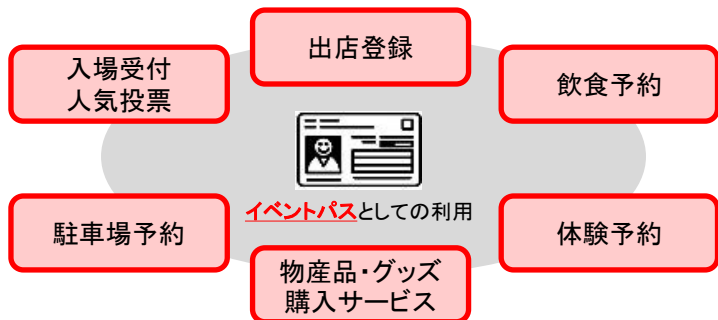
サービス名	④⑤マイナンバーカード活用促進ハイブリット型イベント	事業費	70,000千円
ターゲット	日本の和牛に興味を持つ消費者、企業、シェフ、畜産農家（村民・志望者）		
展開エリア	熊本県南阿蘇村、デジタル空間上		
サービス内容（事業分野：②住民サービス）			

### マイナンバーカード1枚で様々なイベント関連サービスが受けられる「イベントパス化」構想

南阿蘇村発の「和牛をキーワードにした大草原と食のエシカルビレッジ」事業として、マイナンバーカードを日常でも使えること体験してもらうことを目的とした地域性をテーマにしたイベントをリアルとバーチャル空間で実施する。南阿蘇村で開催するリアルイベントは、オンラインでは体験が難しい、南阿蘇の大草原を背景に、食と自然を体感できるフェスを想定。オンラインでは、村外から自由にアクセスしリアルタイムまたはタイムシフトで体験しながら村民や農民との会話を通じて未訪問ながら知り合いを増やし、訪問と持続可能な支援のきっかけを創出する。**参加にはマイナンバーカードによる認証を活用し、イベントパスのようなかたちで様々なサービスが受けられる取り組みの実現へ。**

#### 南阿蘇村で開催のリアルイベント

あか牛をコアに食と健康と自然テーマにしたフェス



マイナンバーカードによるサインアップ

仮想空間

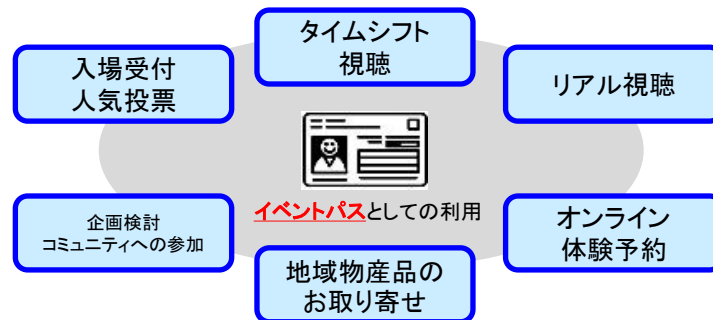


集客した方をコミュニティへ蓄積

次年度以降の持続可能な運営基盤へ

#### 仮想空間上で開催のオンラインイベント

リアルイベントをデジタルシフトし、過程を含めて体験



# サービス概要 (5/5)

## ■ サービス内容

サービス名	⑥コミュニケーションのデジタルツイン化	事業費	20,000千円
ターゲット	日本の和牛に興味を持つ消費者、企業、シェフ、畜産農家（村民・志望者）		
展開エリア	熊本県南阿蘇村、デジタル空間上		
サービス内容（事業分野：②住民サービス）			

### デジタルが苦手な住民に対して、メタバースと現実を繋ぐ「推進委員」による媒介を実現

本事業において、メタバースが必ずしもバーチャル空間で完結する必要はなく、南阿蘇村の住民や遠隔オペレーターが操るアバターをメタバース空間上に配置し、現実空間と同等のコミュニケーションをメタバース上で実現する。マイナンバーカードによる公的個人認証を活用することでメタバース空間でのサポートと現実世界でのサポートを同一のマイナンバー推進委員によるシームレスなサポートを通じて住民サービスの向上へ。

